

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401053		
法人名	有限会社アイケア北海道		
事業所名	グループホーム アイケア手稲		
所在地	札幌市手稲区富丘2条6丁目2-1		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年4月18日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0170401053&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の残存能力を十分活かせる、または維持していけるような支援を日々検討し実施しています。
排泄ならば容易にオムツやリハビリパンツを利用するのではなく、利用者様一人一人の力・排泄リズムを把握し、声掛けにてトイレで排泄を行っています。
また、歩行に関しては、特変時や緊急時を除きなるべく車椅子を使わない支援を行っています。日々の運動や、個々に筋力低下防止の運動を危険の無い範囲で提供したりと工夫しています。その甲斐あり、ご自分から進んで毎日運動して下さる方も増えました。

郊外の閑静な住宅街に位置し、JR駅やバス停に近く利便性に恵まれている。建物は2階建て、室内は居間を中心として明るく利用者の安全と、介護者の動線を考慮した造りで快適な居住空間となっている。運営法人は札幌、小樽、関東地区迄広く福祉事業を展開し「介護を必要とする方と家族が安心して利用できる介護サービスの提供」を目指している。各事業所は記録、研修、人事等で連携をとり、法人代表者と管理者は職員と共にケアサービスの向上と充実をはかっている。利用者の表情は明るい。家族には、個人の介護記録や、写真入りの「通信紙」の送付で日頃の暮らしぶりや行事の様子を報告し、家族の信頼に繋げている。運営推進会議は地域包括支援センター職員、住民代表、利用者、家族、事業所関係者が出席し、事業所運営、行事、災害対策等について討議し意見は運営に反映させている。又、口腔ケアなど出席者の関心のある勉強会を行い、参加者に感謝されている。実習生を積極的に受け入れ、人材育成に力を入れ、教育の場として機能している。地域との関係については、町内会行事に参加する他、近隣の小学生子供会の定期的訪問、高校生ボランティアの受け入れ、近隣住民のボランティア活動があり、災害避難訓練では地域の人々の協力がみられる。地域に根ざして親しまれている期待できる事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員が理念を把握し、それを実践に繋がられる様努めています。	地域密着型サービスの意義を踏まえて理念を作成し事業所内に掲示している。理念は職員ネームプレート裏面にも明記し日々確認しサービス向上に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ホームに地域の方や子供会の方を招いて交流しています。	町内会に加入し、行事に参加している。毎年地域の小学生「こりす子供会」の訪問があり子ども達の紙芝居を楽しむことができる。高校生ボランティアを受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の行事に参加した時などに、地域の方々に事業所の事や認知症の事をお話するよう努めています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の方々に参加して頂き、日頃の報告や話し合いを行い、助言を頂きそれを活かせるよう努めている。	地域包括センター職員、住民代表、家族、利用者、職員が参加し定例に開催している。事業所運営、災害対策等について討議し意見は運営に反映させている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の管理者会議に参加しており、継続して相談や助言を頂くよう努めています。	行政とは常に連絡を取り合い情報交換し協力関係を築いている。区担当職員や地域包括支援センター職員の来訪があり、又、地域の管理者会議では相談や助言を得ている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて日々職員同士で考え、話し合い、カンファレンスにて方向性を決めるなどして取り組んでいます。	身体拘束についてマニュアルを作成しカンファレンスで話し合い認識を共有している。日中玄関には施錠せず安全に配慮しながら自由な雰囲気大切にしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、ホームで勉強会を開き、学ぶ機会を設けています。また、会議を月に一度開催し、介助方法などについて話し合い実践出来るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等様々な理解をする為に、研修会等に参加しています。今後各職員が学べる機会を設けられるよう努めていきます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と共に重要事項も一緒に時間を掛けて説明しています。事業所のケアに関する考え方や取り組み等の説明も行っていきます。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望・苦情等あれば随時対応し、また苦情等は対応だけで終わらずその発生原因を探り、サービスの質の向上に活かせるよう努めています。	内部苦情相談窓口及び外部苦情相談窓口を明示している。玄関に相談ポストを設置し、日頃の関わりの中から家族の要望、意見を把握しサービス向上に努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議内でも必ず聞くようにし、話す機会のある時は問いかけ、反映出来るよう努めています。	管理者と職員はフロア会議で意見交換し、法人包括マネージャーが毎月来訪し職員意見を聴く機会を設けている。意見や提案は運営に反映できるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の評価制度を導入する予定です。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員で共有出来るよう研修内容を報告する機会を持つよう努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の会議に出席し交流する機会があり、また他事業書との職員交換交流等も行っていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった時は必ずご本人様にお会いし、心配事やその人の思いに向き合い、ご本人様に受け入れて頂けるよう努めています。					
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様とお会いし、不安や希望を聞く機会を設けるよう努めています。					
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様と相談や会話を繰り返し行うことで信頼関係を築きながらサービスを提供出来るよう努めています。					
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様・ご家族様より、以前はどのような様子だったのかお聞きしています。					
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事で職員と一緒に過ごした事や日々の体調の変化など、気付いた事はご家族様にお話し、また面会時は居室でゆっくり話が出来るよう配慮しています。					
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた外出先など、関係が途切れない様努めています。	大切な家族や友人との絆が途切れないように、又、馴染みの美容室や商店への買い物など、個々に合わせて支援し、来訪者にはゆっくり寛げるよう配慮している。				
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが苦手だったり、嫌いな入居者様を職員が理解・把握し、一緒に輪の中に入れる用努めています。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡しやすい状態を継続出来るよう努め、移動先の施設に面会なども行っています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望・意向を把握するよう努めています。また、困難な場合は日頃の関わりの中から見つけられる様努め、検討しています。	生活状況や言動、表情から思いを引き出し、家族情報や記録を参考にして個々の意向の把握に努め、本人の希望に添えるよう検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様からその方の生活歴を伺い、把握出来るよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、変化があれば対応できるように努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様・医師などとお話する機会を持ち、課題や意向を伺い、介護計画に反映出来るよう努めています。	本人、家族の意向を尊重し医師、関係者の意見を参考にして計画作成者を中心に職員全員が会議で検討している。定期的なモニタリングの他、変化時は随時介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を把握し、カンファレンスで意見交換することでモニタリングを行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態や体調に合わせ、柔軟な対応をするよう心掛けています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問床屋、ヤクルトやパンの訪問販売を利用したり、行事には町内会の方に参加して頂けるよう声を掛けるなど、地域資源の利用に努めています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月に2回往診に来て頂いており、また急な体調変化にも対応出来るような体制作りを行っています。	提携医とは月2回の往診の他、24時間体制での連絡が可能である。本人、家族の希望する医療機関への連絡、受診支援をしており、常に適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活状態の変化に気づき、かかりつけ医の看護師や訪問看護師に健康状態を報告し、その後のケアについても相談を行い、連携が図れる様支援しています。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様や病院の医師や看護師と連絡を取り情報交換を行うことで連携を図る様努めています。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の指示のもと、職員全体で情報を共有出来るよう努めています。	早期に本人や家族と話し合い「看取り指針」について文書で確認できるよう行なっている。変化が生じた場合、家族、医師、関係者と情報を共有し連携を取り適切に対応している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア内に緊急時対応マニュアルを設置しており、目を通すようにしています。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと昼間・夜間想定での避難訓練を行ったり、町内会にも協力して頂けるような体制を整えるよう努めています。	避難訓練は年2回消防署指導のもと昼夜を想定し、町内会の協力も得て実施している。スプリンクラー、自動火災通報装置を設置し、避難場所、非常用品の確認を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、その人に合った声かけが出来るよう職員同士意見を出し合ったりして工夫しています。	利用者の人格を尊重し誇りを損ねることのない接遇を実践し、個人記録、写真は適切に取り扱い管理している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の言葉に耳を傾け、また日々の行動を観察し何を求めているのかカンファレンスで話し合い、自己決定出来るような支援をする様努めています。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で利用者様の行動を決定するのではなく、その人のペースを尊重した支援が出来るよう努めています。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類が汚れた時は着替えをして頂いたり、その人に合った服装が出来るよう配慮しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と共に食事作りを実施したいが、現状のADLでは困難なことが多い。今後一部皮むきを一緒に行う等、その人の力に合わせて出来るよう検討していきます。	食事準備はその人の力に応じて協力していただき、個々の咀嚼状態に合わせて食材形態にも配慮している。職員と共に食卓を囲む食事は1日の楽しみとなっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成のメニューを基本に実施しており、水分量も日々目標の数値に近くなるよう工夫して支援を行っています。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一部介助にて実施している。自立している利用者様には声かけ・見守りを行っています。また、週に一度の訪問歯科による口腔ケアを利用される方もいます。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の訴え時、または時間を見ながらのトイレ声かけ・誘導を行っています。ご自分で出来るところは行って頂く等、自立支援にも努めています。	日頃の行動や表情、排泄記録から個々の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導し、トイレでの自立排泄に向けて支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示、処方箋の確認を行い水分不足時の飲水の対応等を行っています。また、軽い運動をして頂くなど、予防に努めています。			
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時声かけを行い、こちらの都合で入浴してもらえないよう努めています。また、入浴中は身体確認を行いながらもお話をさせて頂き、楽しんで頂けるよう配慮しています。	週2回以上の入浴を基本としているが、個々のタイミングや体調、希望に添っていつでも入浴することが可能である。安全に配慮しながらゆっくり楽しめるよう努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムに応じた支援が出来るよう努めています。また、就寝時間帯・就寝後は見回り・巡回を行い、事故のないよう努めています。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては確認を重視し、服薬の際には他職員と連携を取り間違いのないよう支援しています。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今後の検討課題であり、入居者様のニーズを取り入れたレクリエーション等の実施を検討していきます。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望に沿った外出支援が出来るよう努めています。	個々の希望に添い、散歩、買い物、美容室などへの外出支援をしている。事業所行事として花見、外食、大型店買い物、日帰り温泉旅行を企画し生活の活性化に努めている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にはご自分で支払いをして頂く様支援しています。また、飲み物代等の少額なお金は所持して頂いている方もいます。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との電話を希望された時などは取り次ぎをし、手紙等も書かれる様支援しています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごして頂けるよう、室温・湿度など配慮し、居間も季節感を感じて頂けるようなレイアウトを行うよう努めています。	リビングを中心にキッチン、トイレ、洗面所、玄関など利用者の動きが見える間取りになっており、広々とゆったりとした共有空間である。居間には季節の物を飾り、採光、温湿度、換気も適切である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々がゆっくりとお話して頂けるように、居間での座席配置に配慮したり、居室でゆっくりお話ししながら過ごして頂けるよう努めています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においても安全で快適に過ごして頂けるよう、ご自分の家具を利用して頂いたり、配置を工夫しています。また、使い慣れた品なども持参して頂いています。	居室には使い慣れた生活用品を持ち込み、好みの装飾をして、その人らしく暮らせるよう工夫している。身体状況に合わせて家具を配置する等安全にも配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来ることはやって頂けるよう、危険のない範囲で見守りを行いながら支援しています。		